

論文審査の要旨および担当者

報告番号	甲 第 号	氏 名	平林 健治	
論文審査担当者：	主査	慶應義塾大学大学院教授	博士（工学）	前野 隆司
	副査	慶應義塾大学大学院教授	博士（工学）	高野 研一
	副査	慶應義塾大学大学院准教授	博士（システムエンジニアリング学）	白坂 成功
	副査	静岡文化芸術大学教授	Ph.D	横田 秀樹
<p>平林健治君提出の学位請求論文は「重回帰分析により抽出した評価の観点に基づく自由英作文のルーブリックのデザイン」と題し、本文7章から構成される。自由英作文の評価基準を規定するルーブリックに関して、英語教育学的かつシステムデザイン・マネジメント学的な視点から研究を行い、日本における自由英作文教育の普及、促進を図ることを狙いとしている。</p> <p>第1章では、本研究の背景として、現在の日本における自由英作文の重要性とその普及のための課題を述べている。また、CEFR-J A2 レベルの英語初級学習者と CEFR-J B2 &amp; C1 レベルの英語上級学習者を対象とした自由英作文のルーブリックをデザインし、その検証を行うことを本研究の目的とすることについて述べている。</p> <p>第2章では、全体的評価および分析的評価に基づき既存のルーブリックについて概観し、課題を明確化している。また、その課題を克服するために、本研究で提案するルーブリックでは、5つの特性「1. 自由英作文の言語的特徴に基づく評価の観点、2. 言語的特徴に基づく分析的評価、3. 統計的に検証した3段階の到達度合い、4. ルーブリックの得点に言語的特徴を抽出した重回帰分析の標準偏回帰係数の比率を採用、5. 到達度合いを言語的特徴の定量的な数値で提示」を有することを述べている。また、評価の観点となる特定要因の言語的特徴選択の考え方を示し、CEFR-J A2 レベルでは5つの視点から15の説明変数候補を、CEFR-J B2 &amp; C1 レベルでは、7つの視点から15の説明変数候補を提示している。</p> <p>第3章では、CEFR-J A2 レベルの自由英作文の評価の観点を明らかにすることを検討している。まず、CEFR-J A2 レベルの自由英作文についてリーダビリティと語彙の豊かさ（多様性と広範さ）の視点から分析している。2つの分析により説明変数候補数が15個のうち10個となるため、それらを説明変数候補とし、自由英作文の全体的評価を従属変数として重回帰分析を行なっている。結果として、総語数、CLI（リーダビリティの指標）、MTLD（語彙の多様性の指標）、Error-free T-unit の平均語数（以下、EFT の平均語数）が CEFR-J A2 レベルの言語的特徴となることを示している。これらの変数に関して<math>\chi^2</math> 検定を行った結果、ルーブリックの到達度合いとなる3段階の数値を得られたのはMTLDを除く3変数となり、ルーブリックの評価には、総語数、CLI、EFT の平均語数を用いれば良いことを示している。</p> <p>第4章では、CEFR-J B2 &amp; C1 レベルの自由英作文の評価の観点を明らかにすることを検討している。まず、CEFR-J B2 &amp; C1 レベルの自由英作文についてリーダビリティと語彙の豊かさ（多様性と広範さ）の視点から分析している。この分析により説明変数候補が12となるため、それらを説明変数候補として用い、自由英作文の全体的評価を従属変数として重回帰分析を行なっている。結果として、2つのモデルを得ている。一つめのモデルでは、構成、内容、言語使用が CEFR-J B2 &amp; C1 レベルの言語的特徴となった。これら3変数に関して<math>\chi^2</math> 検定を行った結果、ルーブリックの到達度合いとなる3段階の数値が得られたことから、これらがルーブリックの評価の観点となることを示している。もう一方のモデルでは、言語使用と CLI が CEFR-J B2 &amp; C1 レベルの言語的特徴となったので、これら2変数に関して<math>\chi^2</math> 検定を行った結果、ルーブリックの到達度合いとなる3段階の数値が得られ、ルーブリックの評価のために用いることができることを示している。</p> <p>第5章では、第3章および第4章の結果を基に、CEFR-J A2 レベルおよび CEFR-J B2 &amp; C1 レベルの自由英作文のルーブリックを新たにデザインしている。CEFR-J A2 レベルに関しては、3変数の意味合い考慮し、評価の観点の名称を、情報量の豊かさ（総語数）、語彙や文体の難易度（CLI）、エラーが少なく熟達した英文（EFT 平均語数）としたルーブリックを示している。一方、CEFR-J B2 &amp; C1 レベルに関しては、構成、内容、言語使用を評価の観点とするルーブリックと言語使用と語彙や文体の難易度（CLI）を評価の観点とするルーブリックを示している。</p> <p>第6章では、デザインした3つのルーブリックに基づく得点と全体的評価の相関関係を調査することによって、検証を行っている。結果として、いずれのルーブリックにおいても、その得点は全体的評価とは正の高い相関関係があったことから、その有用性を明らかにしている。</p> <p>第7章では、結論を示している。すなわち、本研究では、CEFR-J A2 レベルと CEFR-J B2 &amp; C1 レベルに関して、3つのルーブリックを提案している。これらのルーブリックは自由英作文の学習者や指導者に指針を提供するという点において有用であり、その意義は大きいことを述べている。</p> <p>以上要するに、本研究では、重回帰分析により抽出した評価の観点に基づき、新たな自由英作文のルーブリックをデザインするとともにその妥当性を検証している。日本における自由英作文教育の普及、促進に有用な研究であり、英語教育学的かつシステムデザイン・マネジメント学的な寄与が少なくない。従って、本論文の著者は博士（システムデザイン・マネジメント学）の学位を受ける資格があるものと認める。</p>				